

# 古文ドリル：「す・さす・しむ」（使役・尊敬）100問

対象：高校生・大学受験生 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

## はじめに：「す・さす・しむ」の2用法

「す」「さす」「しむ」は古文の助動詞で、**2つの意味**を持つ。

| 用法   | 訳     | 判別ポイント      |
|------|-------|-------------|
| ① 使役 | ～させる  | 動作主が別の人     |
| ② 尊敬 | お～になる | 主語が高貴＋下に尊敬語 |

## 接続

- ・ **す**：四段・ナ変・ラ変の **未然形**
- ・ **さす**：その他の **未然形**
- ・ **しむ**：すべての動詞の **未然形**（漢文訓読体が多い）

## 識別の鉄則

1. **下に尊敬語（給ふ・おはす）＋主語が高貴** → 尊敬の二重敬語
2. **動作主が別の人** → 使役
3. **下に尊敬語がない** → ほぼ確実に使役

特に「**せたまふ**」「**させたまふ**」「**しめたまふ**」は **二重敬語の典型**。

## 二重敬語の見分け方

**尊敬の二重敬語**： - 主語が帝・中宮・親王・摂関大臣など最高位 - 下に「給ふ」「おはす」が続く -  
訳：「お～になる」「～なさる」

**使役**： - 主語が高貴でも、動作主が下の人 - 例：「家臣に書か**せたまふ**」 → 家臣が書く（使役）  
→ 文脈で動作主を見極めることが重要。

## 🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

### コツ① 「す／さす／しむ」の直後に尊敬語があるかをまず見る

- ・直後が「給ふ／おはす／たまふ／おはします」→ **尊敬の可能性大**（二重敬語）
- ・直後が **尊敬語以外**（句点・他動詞・接続助詞）→ **使役で確定**「～させる」
- ・これだけで6～7割が片付く。

### コツ② 尊敬語が下にあっても 動作主 を見て使役か尊敬か決める

- ・「**せ給ふ／させ給ふ／しめ給ふ**」が出てきたら、**主語＝動作主** か確認
- ・帝・中宮・親王が **自分で** 動作している → **尊敬の二重敬語**「お～になる」
- ・主語は貴人だが、別の人（家臣・女房）に **やらせている** → **使役＋尊敬**
- ・「○○に書か**せ**たまふ」のように「○○に」があれば使役確定。

### コツ③ 「しむ」は 漢文訓読体 の合図

- ・「しむ」を見たら出典が **漢文訓読・記録体・軍記** の可能性が高い。
- ・訳語は基本「使役」優先。尊敬の「しむ」は出題例としては稀。

### コツ④ 二重敬語が成立する 主語の位置 を覚える

- ・天皇・上皇・院・中宮・東宮 → **二重敬語の対象**
- ・摂関・大臣も対象になるが、文脈で「特別な尊敬」かを判断
- ・一般貴族（中流以下）には二重敬語は使わない → **使役** で訳す

### 試験本番でのチェック順序

1. 直後に **尊敬語**（給ふ・おはす）があるか確認
  2. なければ → **使役で確定**
  3. あれば主語を見る → **最高位の貴人で自分が動作している** → 尊敬の二重敬語
  4. 「○○に」がある or 主語が動作していない → **使役**（尊敬語は別の人物への敬意）
- この順番で **3秒** で答えが出ます。

### よくある引っかけ

- ・「**仰せらる**」は「仰す」自体が尊敬語で、その後の「らる」も尊敬。「す・さす」とは別物
- ・「**せ給ふ**」が必ず二重敬語とは限らない → 動作主が別人なら使役＋尊敬
- ・「**しめ給ふ**」は漢文系で出てくる二重敬語。和文ではあまり見ない

- ・「思す（おぼす）」「仰す（おほす）」は一語の尊敬動詞で「す・さす」ではない

## 採点表

- ・基礎（Q1～Q20）：／20
- ・標準（Q21～Q50）：／30
- ・応用（Q51～Q80）：／30
- ・入試レベル（Q81～Q100）：／20
- ・合計：／100

## 【第1部】基礎編（Q1～Q20）

二重敬語の典型／単純使役を識別する基礎問題。

### Q1. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

主、家臣に物を取ら**せ**たまふ。

**答え：**使役 **解説：**「取ら」四段未然＋「せ」＋尊敬「たまふ」。動作主は家臣。「家臣に取らせなさる」。

### Q2. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御文を書か**せ**たまふ。

**答え：**尊敬（二重敬語） **解説：**「書か」未然＋「せ」（尊敬「す」未然）＋「たまふ」。主語が帝（高貴）。「お書きになる」。

### Q3. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

中宮、御覧ぜ**させ**たまふ。

**答え：**尊敬（二重敬語） **解説：**「御覧ぜ」（サ変「御覧ず」未然）＋「させ」（尊敬「さす」連用）＋「たまふ」。「ご覧になる」。

**Q4. 次の傍線部「しむ」を識別せよ。**

子に勉強せしむ。

答え：使役 解説：「せ」（サ変「す」未然）＋「しむ」。下に尊敬語なし。「子に勉強させる」。

---

**Q5. 次の傍線部「させ」を識別せよ。**

御代を治めさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「治め」（下二段「治む」未然）＋「させ」（尊敬「さす」連用）＋「たまふ」。「お治めになる」。

---

**Q6. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

弟に仕事を仕うまつらせけり。

答え：使役 解説：「仕うまつら」未然＋「せ」（使役「す」連用）＋「けり」。下に尊敬語なし。「弟に仕事させた」。

---

**Q7. 次の傍線部「させ」を識別せよ。**

帝、出でさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「出で」（下二段「出づ」未然）＋「させ」＋「たまふ」。「お出になる」。

---

**Q8. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。**

親、子に書を学ばしめけり。

答え：使役 解説：「学ば」未然＋「しめ」（「しむ」連用）＋「けり」。動作主は子。「子に書を学ばせた」。

---

**Q9. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

中納言、御文書かせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「書か」未然＋「せ」＋「たまふ」。主語が中納言（高貴）。

---

**Q10. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

主、馬を走ら**せ**たまふ。

答え：使役 解説：「走ら」未然＋「せ」（使役）＋「たまふ」。走る動作主は馬。

---

**Q11. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

神、雨を降ら**せ**たまふ。

答え：使役 解説：「降ら」未然＋「せ」＋「たまふ」。神の力で雨を降らせる＝使役。動作主は雨そのものの。

---

**Q12. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

帝、嘆か**せ**たまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「嘆か」未然＋「せ」＋「たまふ」。主語が帝。「お嘆きになる」。

---

**Q13. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

子を眠ら**せ**たまふ。

答え：使役 解説：「眠ら」未然＋「せ」（使役）＋「たまふ」。眠る動作主は子。

---

**Q14. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

院、御琴弾か**せ**たまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「弾か」未然＋「せ」＋「たまふ」。主語が院（高貴）。

---

**Q15. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

朝廷、僧を召さ**せ**たまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「召さ」（四段「召す」未然）＋尊敬の助動詞「す」連用「せ」＋尊敬の補助動詞「たまふ」。動作主は朝廷（呼ぶ主体）で、「お呼びになる」「お召しになる」と訳す尊敬の二重敬語。

---

**Q16. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

我が君、楽しませたまふ。

**答え：**尊敬（二重敬語） **解説：**「楽しま」（四段「楽しむ」未然）＋「せ」＋「たまふ」。「お楽しみになる」。

---

**Q17. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

老人、子に仕えまつらせたり。

**答え：**使役 **解説：**「仕えまつら」未然＋「せ」（使役）＋「たり」。下に尊敬語なし。「子に仕えさせていた」。

---

**Q18. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

御物の怪に苦しませたまふ。

**答え：**尊敬（二重敬語） **解説：**「苦しま」四段未然＋「せ」＋「たまふ」。主語が高貴な方、物の怪に苦しんでおられる。「お苦しみになる」。

---

**Q19. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

御階を上らせたまふ。

**答え：**尊敬（二重敬語） **解説：**「上ら」未然＋「せ」＋「たまふ」。「お上りになる」。

---

**Q20. 次の傍線部「さす」を識別せよ。**

兄に弟を慰めさす。

**答え：**使役 **解説：**「慰め」下二段未然＋「さす」（使役終止）。下に尊敬語なし。「兄に弟を慰めさせる」。

---

## 【第2部】 標準編（Q21～Q50）

動作主の判別、敬意の方向、複合動詞下接など。

### Q21. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

上、女房に歌詠ませたまふ。

**答え：**使役 **解説：**「詠ま」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は女房。「女房に歌を詠ませなさる」。主語が高貴でも動作主が別人なら使役。

### Q22. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

大臣、御車に乗らせたまふ。

**答え：**尊敬（二重敬語） **解説：**「乗ら」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は大臣自身。「お乗りになる」。

### Q23. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

后、御簾を上げさせたまふ。

**答え：**使役 **解説：**「上げ」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。御簾を上げるのは女房等。「上げさせなさる」。

### Q24. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

中宮、御覧ぜさせたまへり。

**答え：**尊敬（二重敬語） **解説：**サ変「御覧ず」の未然形は「御覧ぜ」。未然形＋尊敬「させ」＋「たまへり」。中宮ご自身がご覧になる。

### Q25. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。

帝、群臣をして政を執らしめたまふ。

**答え：**使役 **解説：**「執ら」未然＋「しめ」＋「たまふ」。「をして～しむ」は漢文訓読体の使役の典型。動作主は群臣。

Q26. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御涙を流さ**せ**たまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「流さ」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は帝自身。「涙をお流しになる」。

Q27. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

主、舎人に火をともさ**せ**たまふ。

答え：使役 解説：「ともさ」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は舎人。

Q28. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

院、僧をして経を読ま**せ**たまふ。

答え：使役 解説：「読ま」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は僧。

Q29. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

上、夢覚め**させ**たまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「覚め」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は上自身。

Q30. 次の傍線部「しむ」を識別せよ。

学を好ま**しむ**べし。

答え：使役 解説：「好ま」未然＋「しむ」（終止）＋「べし」。漢文訓読体。「学を好ませるべし」。

Q31. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御物思は**せ**たまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「思は」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は帝。「お思いになる」。

**Q32. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

親、子に物言は**せ**つ。

**答え：**使役 **解説：**「言は」未然＋使役「す」連用「せ」＋「つ」(完了)。下に尊敬語なし。「子に物を言わせた」。

**Q33. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

院、人々を集め**させ**たまひて、酒を飲ま**せ**たまふ。

**答え：**(前者) 使役／(後者) 使役 **解説：**「集め」させて、また「飲ま」せている。動作主はそれぞれ家来・人々。

**Q34. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

大将、内裏に参ら**せ**たまふ。

**答え：**尊敬(二重敬語) **解説：**「参ら」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は大将自身。

**Q35. 次の傍線部「させ」を識別せよ。**

上、笛吹か**せ**たまふ。

**答え：**尊敬(二重敬語) **解説：**「吹か」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は上自身。「お吹きになる」。

**Q36. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

帝、人をして文ばこを持た**せ**たまふ。

**答え：**使役 **解説：**「持た」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は人。「人に文箱を持たせなさる」。

**Q37. 次の傍線部「させ」を識別せよ。**

御簾の内に入ら**せ**たまふ。

**答え：**尊敬(二重敬語) **解説：**「入ら」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は高貴な方ご自身。

**Q38. 次の傍線部「させ」を識別せよ。**

后、僧に祈祷せ**させ**たまふ。

答え：使役 解説：「せ」（サ変未然）＋「させ」＋「たまふ」。動作主は僧。「祈祷させなさる」。

---

**Q39. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。**

人をして書か**しめ**たまふ。

答え：使役 解説：「書か」未然＋「しめ」＋「たまふ」。「人をして～しむ」は漢文訓読体の使役。

---

**Q40. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

帝、御独言を申さ**せ**たまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「申さ」未然＋「せ」＋「たまふ」。帝が独言を口にされる。

---

**Q41. 次の傍線部「させ」を識別せよ。**

上、楽人に楽奏で**させ**たまふ。

答え：使役 解説：「奏で」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は楽人。

---

**Q42. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

帝、御車寄せ**させ**たまへり。

答え：使役 解説：「寄せ」下二段未然＋「させ」＋「たまへり」。動作主は車副の者。

---

**Q43. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

中宮、御髪梳ら**せ**たまふ。

答え：使役 解説：「梳ら」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は女房（梳く者）。

---

**Q44. 次の傍線部「させ」を識別せよ。**

院、御目開け**させ**たまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「開け」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は院自身。

---

Q45. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。

国を治めしめたまふ。

答え：尊敬（漢文訓読体の最高敬意） 解説：「治め」未然＋「しめ」＋「たまふ」。「しめたまふ」は漢文訓読体で最高敬語として用いられる。

---

Q46. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

主、馬を引かせけり。

答え：使役 解説：「引か」未然＋「せ」＋「けり」。下に尊敬語なし。

---

Q47. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

上、人を待たせたまふ。

答え：使役 解説：「待た」未然＋「せ」＋「たまふ」。「人」を待たせる＝動作主は人。

---

Q48. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

大臣、御簾の外に出でさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「出で」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は大臣自身。

---

Q49. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

親、子に文学ばせたまふ。

答え：使役 解説：「学ば」（四段「学ぶ」未然）＋使役「す」連用「せ」＋「たまふ」。動作主は子。「子に書物を学ばせなさる」。

---

Q50. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

上、もてあそびて笑はせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「笑は」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は上自身。「お笑いになる」。

標準編 / 30

## 【第3部】 応用編（Q51～Q80）

文脈で動作主を判定する応用問題、敬意の方向の問い、源氏物語等出典系。

Q51. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、月を愛でさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「愛で」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は帝自身。

Q52. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、人々をして御遊び始めさせたまふ。

答え：使役 解説：「始め」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は人々。

Q53. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

中宮、御物語せさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「せ」サ変未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は中宮ご自身。

Q54. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝の御使ひに侍りせしに。

答え：（参考）過去「き」未然形「せ」 解説：これは「す・さす・しむ」ではない。「せ」は過去「き」未然形（「～せば」）。引っ掛け問題。

Q55. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

帝、御身浄めさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「浄め」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は帝自身。

---

Q56. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

母、子の手を引か**せ**つ。

答え：使役 解説：「引か」未然＋「せ」＋「つ」。下に尊敬語なし。「子の手を引かせた」。

---

Q57. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。

主君、家臣に城を築か**しめ**たまふ。

答え：使役 解説：「築か」未然＋「しめ」＋「たまふ」。動作主は家臣。

---

Q58. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、御涙さしぐま**せ**たまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「さしぐま」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は院自身。

---

Q59. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

大將、人々を呼ば**せ**たまふ。

答え：使役 解説：「呼ば」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は呼ぶ役の者。

---

Q60. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

帝、人をして御文届け**させ**たまふ。

答え：使役 解説：「届け」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は人。

---

Q61. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

中宮、御涙の浮かば**せ**たまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「浮かば」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は中宮自身（涙を浮かべる）。

---

**Q62. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

上、御文を取り出ださ**せ**たまふ。

**答え：**尊敬（二重敬語） **解説：**「取り出ださ」（四段「取り出だす」未然形）＋尊敬「す」連用形「せ」＋「たまふ」。動作主は上自身。

**Q63. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

院、御物の怪に悩ま**せ**たまふ。

**答え：**尊敬（二重敬語） **解説：**「悩ま」（四段「悩む」未然形）＋尊敬「す」連用形「せ」＋「たまふ」。動作主は院自身で「(物の怪に) お苦しみになる」。「取り憑かれる」と受身で言うなら「る」を使うが、ここは「悩む」の主体が院なので尊敬。源氏物語頻出の言い回し。

**Q64. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

帝、若き女房に琴教へ**させ**たまふ。

**答え：**使役 **解説：**「教へ」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は帝（教える側）か？文脈次第。多くは「教えさせる」（使役）と読む。

**Q65. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

御乳母に若宮を抱か**せ**たまふ。

**答え：**使役 **解説：**「抱か」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は御乳母。

**Q66. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

帝、宴を催さ**せ**たまふ。

**答え：**尊敬（二重敬語） **解説：**「催さ」四段未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は帝自身（催す主体）。

**Q67. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

上、御側近くに召し寄せ**させ**たまふ。

答え：使役 解説：「召し寄せ」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は人（呼び寄せられる側を呼ぶ人）。

---

**Q68. 次の傍線部「させ」を識別せよ。**

院、御念誦せさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「念誦せ」サ変未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は院自身。

---

**Q69. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

主、童に文届けさせたり。

答え：使役 解説：「届け」下二段未然＋「させ」＋「たり」。下に尊敬語なし。動作主は童。

---

**Q70. 次の傍線部「させ」を識別せよ。**

上、御袖を顔に押し当てさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「押し当て」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は上自身。

---

**Q71. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

国王、神に祈らせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「祈ら」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は国王自身。「お祈りになる」。

---

**Q72. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

大臣、舞人に舞はせたまふ。

答え：使役 解説：「舞は」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は舞人。

---

**Q73. 次の傍線部「させ」を識別せよ。**

中宮、御消息聞こえさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「聞こえ」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は中宮自身。最高敬意の例。

---

Q74. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。

帝、近臣をして御使ひに行かしめたまふ。

答え：使役 解説：「行か」未然＋「しめ」＋「たまふ」。「をして～しむ」漢文訓読の使役。

---

Q75. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、御簾の内に入らせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「入ら」（四段「入る」未然形）＋尊敬「す」連用形「せ」＋「たまふ」。動作主は院自身（二重敬語）。

---

Q76. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

中宮、御乳母に童を遊ばせたまふ。

答え：使役 解説：「遊ば」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は童。乳母が遊ばせる。

---

Q77. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

上、御物思ひ晴らさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「晴らさ」四段未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は上自身。

---

Q78. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御車に乗り換へさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「乗り換へ」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は帝自身。

---

Q79. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

親王、御涙ぬぐはせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「ぬぐは」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は親王自身。

Q80. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

上、女御を御所に住ま**せ**たまふ。

答え：使役 解説：「住ま」（四段「住む」未然）＋使役「す」連用「せ」＋「たまふ」。動作主は女御。「女御を御所にお住まわせなさる」。

応用編 / 30

## 【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

難関大頻出の文脈判定・敬意連動・誤読しやすい問題。

Q81. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

上は、いと思しめし嘆か**せ**たまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「思しめし嘆か」未然＋「せ」＋「たまふ」。「思しめす」自体最高敬語、さらに「せたまふ」で二重敬語。源氏物語典型。

Q82. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御使ひを召して、急ぎ宮中へ参ら**せ**たまふ。

答え：使役 解説：「参ら」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は御使ひ。「使者を参上させなさる」。

Q83. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

大臣、御娘を入内**さ**せたまふ。

答え：使役 解説：「入内**さ**」サ変未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は御娘。「娘を入内させなさる」。

Q84. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、夜もすがら御文書か**せ**たまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「書か」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は院自身。「夜通しお書きになる」。

---

**Q85. 次の傍線部「させ」を識別せよ。**

御乳母、若宮を御湯浴み**させ**たまふ。

答え：使役 解説：「湯浴み**さ**」サ変未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は若宮。乳母が湯浴みさせる。

---

**Q86. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

中宮、御乳母をして御文奉ら**せ**たまふ。

答え：使役 解説：「奉ら」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は乳母。「奉らせなさる」。

---

**Q87. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

いとあはれに思しめ**せ**たまへり。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「思しめ**さ**」未然＋「せ」＋「たまへり」。最高敬語の典型。

---

**Q88. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

帝、御位を譲ら**せ**たまひぬ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「譲ら」未然＋尊敬「す」連用「せ」＋「たまふ」。動作主は帝自身。「ご譲位なさった」。

---

**Q89. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

大將、人をして御消息伝へ**させ**たまふ。

答え：使役 解説：「伝へ」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は人。

---

**Q90. 次の傍線部「させ」を識別せよ。**

後の宮、御覧ぜ**させ**おはします。

**答え：**尊敬（最高敬語） **解説：**サ変「御覧ず」の未然形は「御覧ぜ」。未然形＋尊敬「させ」＋「おはします」（最高敬語の補助動詞）。動作主は後の宮自身。

---

**Q91. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。**

帝、貴族をして御階を上らしめたまふ。

**答え：**使役 **解説：**「上ら」未然＋「しめ」＋「たまふ」。動作主は貴族。漢文訓読体使役。

---

**Q92. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

院、姫君を御膝に乗せさせたまふ。

**答え：**尊敬（二重敬語） **解説：**「乗せ」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は院。「(姫君を) 膝にお乗せになる」。

---

**Q93. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

帝、池の鯉を女房に養はせたまふ。

**答え：**使役 **解説：**「養は」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は女房。

---

**Q94. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

上、御心地悩ませたまふ。

**答え：**尊敬（二重敬語） **解説：**「悩ま」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は上自身。「お悩みになる」。

---

**Q95. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

帝、御娘の入内を急がせたまふ。

**答え：**使役 **解説：**「急が」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は周りの人々（入内の準備をする者）。

---

**Q96. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

院、いみじう泣か**せ**たまふ。

**答え：**尊敬（二重敬語） **解説：**「泣か」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は院自身。「ひどくお泣きになる」。

**Q97. 次の傍線部「させ」を識別せよ。**

大臣、御所のしつらひ整へ**させ**たまふ。

**答え：**使役 **解説：**「整へ」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は家人。

**Q98. 次の傍線部「させ」を識別せよ。**

院、家人に御琴のしらべ整へ**させ**たまふ。

**答え：**使役 **解説：**「整へ」（下二段「整ふ」未然）＋使役「さす」連用「させ」＋「たまふ」。「家人に」が動作主を明示している。「家人に御琴の調子を整えさせなさる」。

**Q99. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。**

国家を平らかに治め**しめ**たまふ。

**答え：**尊敬（最高敬語、漢文訓読体） **解説：**「治め」未然＋「しめ」＋「たまふ」。動作主は天子自身。漢文訓読体での最高敬意。

**Q100. 次の傍線部「せ」を識別せよ。**

帝、いと細やかに御物語せ**させ**たまふ。

**答え：**尊敬（二重敬語） **解説：**「せ」（サ変未然）＋「させ」＋「たまふ」。動作主は帝自身。源氏物語の典型構文。

入試レベル / 20

## 採点振り返り

| セクション         | 配点  | 得点 |
|---------------|-----|----|
| 基礎 (Q1～Q20)   | 20  |    |
| 標準 (Q21～Q50)  | 30  |    |
| 応用 (Q51～Q80)  | 30  |    |
| 入試 (Q81～Q100) | 20  |    |
| 合計            | 100 |    |

- 80点以上：完璧。源氏物語の最高敬語も読める
- 60～79点：標準合格レベル
- 40～59点：基礎は固まっている。応用編を反復
- 39点以下：「せたまふ」「させたまふ」の二重敬語パターンを再確認

## あとがき

「す・さす・しむ」識別の核心： - 二重敬語「せたまふ」「させたまふ」は古文の最頻出 - 主語が高貴 + 下に尊敬語 + 動作主が同じ → 尊敬 - 動作主が別人 → 使役（主語が高貴でも！） - 「しめたまふ」は漢文訓読体の最高敬意

源氏物語・枕草子の宮中文学に頻出。これを押さえると、敬語表現が一気にクリアになる。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太